

## 熊本地域公共交通計画の体系

※目指す都市の将来像、公共交通が果たすべき役割、目指す公共交通の将来像、取組の方向性、計画の目標、施策展開の基本的な考え方、各事業の関係性について整理したもの。

### 都市の将来像

### 公共交通の役割

### 公共交通の将来像

### 取組の方向性

### 計画の目標

### 施策の展開

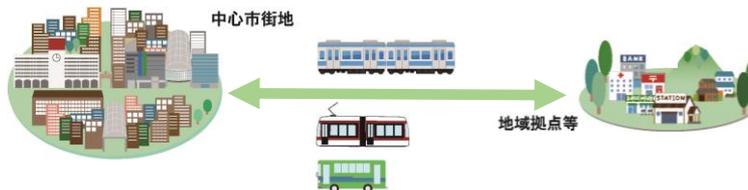
1 日常生活に必要な移動を支えること

2 多核連携都市の実現に貢献すること

3 まちの賑わい創出・環境改善に貢献すること

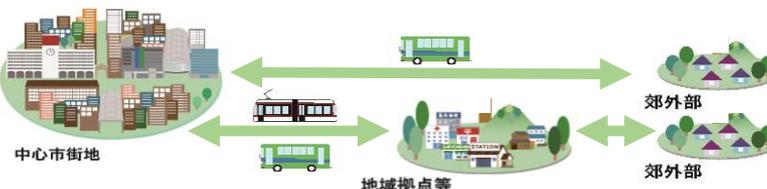
誰もが安心して移動できる持続可能な公共交通

1 コンパクトシティ + ネットワークのまちづくり



1 まちづくりと連動した公共交通施策の展開

2 広域都市圏を見据えた公共交通ネットワークの形成



2 都市圏全体を見渡した利便性の高い持続可能な公共交通網の形成

3 地域社会全体で支え合う公共交通



3 住民・事業者・行政等の適切な役割分担と協働による公共交通の維持・確保

- (1) 基幹公共交通の機能強化
- ゾーンシステムの導入
  - 乗換拠点の整備
  - 快速バス等の導入
  - 公共車両等の走行環境の改善
  - バス・鉄軌道等の輸送力の向上

- (2) 桜町バスターミナル・熊本駅を核とした交通体系の構築
- 桜町バスターミナル・熊本駅を核とした新たな路線の検討

- (3) バス路線網の再編
- 共同経営を中心とした持続可能なバス路線網の再構築
  - 環状線(まちなかループバス等)の運行
  - 輸送資源を活用した交通体系の効率化

- (4) コミュニティ交通の導入
- AIデマンドタクシーの導入の検討
  - 新たなコミュニティ交通の導入

- (5) 公共交通の利用促進
- バスロケーションシステム等の拡充
  - 市電ロケーションシステム等の拡充
  - バリアフリー対応車両の充実
  - 電停のバリアフリー化(電停改良)
  - P&R、C&R等の拡充
  - 交通事業者等と連携した利用促進
  - 公共交通のシームレス化の推進
  - 利用しやすい市電タイヤの設定

- (6) 新技術を活用した移動手段の検討
- 自動運転技術の導入検討

- (7) ベストミックスの構築
- 総合的な交通戦略の推進(道路施策等との連携)

※将来像や取組みの方向性、計画の目標は、現計画を踏襲

公共交通を基軸とした多核連携都市くまもと

# 熊本地域公共交通計画事業一覧表

事業名称	事業概要	事業スケジュール		今年度（令和6年度）の取組内容	頁
		前期 H28年度～R2年度	後期 R3年度～R7年度		
事業（1） ゾーンシステムの導入	各種交通手段を幹線と支線に設定するゾーンシステムの導入	実施中	検討・実施	・植木方面について、共同経営計画に基づき、路線バス事業者が幹線の最適化（重複路線の見直し・待ち時間の平準化）を実施中	
事業（2） 乗換拠点の整備	ゾーンシステム乗換拠点や地域拠点乗換拠点、鉄道駅乗換拠点等における待合環境等の整備	実施中	検討・実施	・新水前寺駅東西高架下駐輪場の改修工事を実施 ・ベンチの設置（待合環境改善） ・新水前寺駅バス停留所設置に向け実証実験及びアンケート調査を実施し、その結果について住民説明会を開催するなど地域との合意形成に取り組んだ。 ・上熊本駅だけでなく、熊本電鉄を軸とした広域的な新たな公共交通ネットワークの構築に向けた検討を行う方向性について、関係者と合意。	P3,P4
事業（3） 快速バス等の導入	ゾーンシステム乗換拠点等からの快速バス等の導入検討		検討・実施	・熊本西環状道路（池上工区）工事（令和7年度完了予定）	
事業（4-1） 公共車両等の走行環境の改善	バス専用（優先）レーンや公共車両優先システム（PTPS）の導入拡大検討	実施中	拡大検討	・バスレーン導入の検討と併せて、時差出動やP&R、C&Rなど、短中期での走行環境改善策を実施、検討	
事業（4-2） 公共車両等の走行環境の改善	ボトルネック交差点等の改良、バスベ이의整備等	実施中	拡大実施	・道路整備プログラムに沿った交差点改良事業の実施	
事業（4-3） 公共車両等の走行環境の改善	路面電車の軌道の高度化		検討・実施	・軌条更换に伴い、コンクリートマクラギ化及び制振軌道化を実施。	
事業（5） バス・鉄軌道等の輸送力の向上	大量輸送車両の導入や需要に応じた増便等による輸送力の向上	実施中	拡大実施	・多両編成車両（超低床電車）を2編成導入（市電）	P5
事業（6） 路面電車ネットワークの拡充	市電路線の延伸		検討・実施	・（仮称）東町線の実施設計に着手予定であったものの、市電の安心、安全の確保に最優先で取り組むため、その着手を延期	
事業（7） 熊本市電における上下分離方式の導入	熊本市電における上下分離方式の導入		検討・実施	・軌道運送高度化実施計画の作成（安全を再構築したうえで内容を精査するため、申請を延期） ・市電の運行を担う上物事業者である「一般財団法人 熊本市公共交通公社」の設立	P5
事業（8） 桜町バスターミナル、熊本駅を核とした新たな路線の検討	桜町バスターミナル、熊本駅を活用した新たなバス路線等の検討	実施中	拡大実施	・共同経営計画に基づき、桜町バスターミナルから熊本駅へ路線を延伸、通町筋・桜町バスターミナルを通らない熊本駅長嶺線（直行便）の運行を実施中。	
事業（9） 共同経営を中心とした持続可能なバス路線網の再構築	バス路線網の効率化・再構築、一元的なバスサービスの提供、競合路線におけるダイヤ改善、競合路線の解消、競合路線のバス停における時刻表及び路線図の統一化	実施中	拡大検討・実施	・路線バス事業に関するデータを公表 ・共同経営計画に基づく取組を継続して実施中	
事業（10） 環状線（まちなかループバス等）の導入	各基幹公共交通軸を補完する環状線の導入検討	実施中	拡大検討・実施	・熊本城周遊バス（しろめぐりん）の運行	
事業（11） 輸送資源を活用した交通体系の効率化	需要規模に応じた効率的・効果的な運行		検討・実施	・タウンサイジング等の検討 ・西南地域及び植木地域におけるAIデマンドタクシーの本格運行を開始	
事業（12） 公共交通空白地域等へのコミュニティ交通の導入	公共交通空白地域等にデマンド型の乗合タクシー等を導入	実施中	拡大実施	・公共交通空白地域等において、乗合タクシーを2路線運行 ・西南地域及び植木地域におけるAIデマンドタクシーの本格運行を開始	P6
事業（13） 新たなコミュニティ交通の導入	地域の特性や実情に応じた新たなコミュニティ交通の導入		検討・実施	・西南地域及び植木地域におけるAIデマンドタクシーの本格運行を開始 ・子育て世代支援を目的としたAIデマンドタクシーの実証実験を実施 ・コミュニティ交通の導入基準・サービス水準の検討に着手	P6
事業（14） バスロケーションシステム等の拡充	位置情報システム（GPS）を活用したバスロケーションシステムやスマートバス停の拡充	実施中	拡大検討・実施	・バスきたくさんの周知	
事業（15） 市電ロケーションシステム等の拡充	位置情報システム（GPS）を活用した市電ロケーションシステムやスマート電停の拡充	実施中	拡大検討・実施	・市電ロケーションシステムやデジタルサイネージを活用した情報発信を実施	
事業（16） バリアフリー対応車両の充実	ノンステップバスや超低床電車（LRV）の導入	実施中	拡大実施	・ノンステップバスの導入を促進 ・多両編成車両（超低床電車）を2編成導入（市電）	
事業（17） 電停のバリアフリー化（電停改良）	電停ホームのバリアフリー化（かさ上げ、拡幅等）	実施中	拡大実施	・味噌天神前電停の予備設計	
事業（18） パークアンドライド（P&R）、サイクルアンドライド（C&R）等の拡充	パークアンドライド（P&R）、サイクルアンドライド（C&R）、キスアンドライド（K&R）の整備	実施中	拡大検討・実施	・C&R駐輪場の詳細設計を実施	P7
事業（19） 交通事業者等と連携した利用促進	バス事業者・関係機関等と連携した公共交通利用促進事業の実施	実施中	拡大検討・実施	・バス、電車無料の日を実施 ・バス・電車フェスタ2024を開催 ・まちなかフリーバスの導入	P8
事業（20） 新しい生活様式への対応	新型コロナウイルス感染リスク低減による公共交通の利用促進		拡大検討・実施	・感染症法上の5類移行に伴い、各種の取組は終了。	
事業（21） 公共交通のシームレス化の推進	公共交通のシームレス化に向けたICT等の推進		検討・実施	・九州MaaSの導入に向けた関係者との協議	
事業（22） 利用しやすい市電のダイヤ設定	市電のラウンドダイヤの拡充		検討・実施	・ラウンドダイヤの運用	
事業（23） 自動運転技術の導入検討	自動運転バスの実証実験		検討・実施	・運転支援レベル2での実証実験	P8

# 令和6年度の主な取組

## 事業（2）乗換拠点の整備（新水前寺駅交通結節機能強化）

### <概要>

- ・ JRから市電への乗換えが非常に多く、横断歩道橋や横断歩道まで人が並んでいる状況。
- ・ 利用者の安全確保及び今後も増加が見込まれる乗換え需要に対応し、利用客の分散化を図るために新水前寺駅高架下（高森線乗り方面）直近へバス停を新設するもの。



### <取組状況>

#### 【①実証実験】

- ・ バス停設置による側道の通行止めなど、地域への影響を確認するため実証実験を実施

①実証実験	
期間	11月27日から12月17日までの21日間実施
内容	①高架下歩道幅員の一部減少 ②左折レーン長短縮 ③側道通行止め
考察	バスベイ整備による地域や周辺交通に大きな混乱はなかったと考えられる

#### 【②アンケート調査】

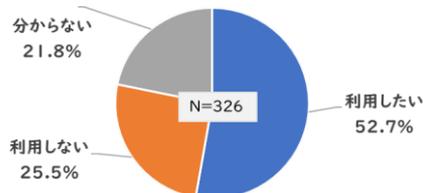
- ・ バス停設置時の利用ニーズ等の把握や、側道車両通行止めをはじめとする、実証実験による地域や周辺交通への影響に関して意見を伺うためにアンケート調査を実施

②アンケート調査	
期間	12月6日から1月10日までの36日間実施
回答者数	326名
結果	新設バス停を利用したいという回答は5割強であった(※1)
考察	「市電に比べ定時性が確保されていないため利用づらい」という否定的な意見もあったが、朝ピーク時の新水前寺駅から中心市街地方面への所要時間を比べると、バスレーンがあるため市電と大きな差はない。また、バスの方が運行本数も多いため、これらを周知することで市電からの利用転換を図ることが必要。



▲施設配置状況 出典：PLATEAU VIEW（国土交通省 <https://plateauview.mlit.go.jp/>）を加工して作成

### (問) バス停を利用するか？



▲アンケート結果(※1)

## 事業（2）乗換拠点の整備（バス停ベンチ設置）

### <概要>

- ・ バス停にベンチを設置し、待合環境の改善を推進することで、誰もが移動しやすく暮らしやすいバリアフリー環境をつくとともに、公共交通の利用促進を図る。

### <取組状況>

- ・ 令和5～6年度にかけて設置場所の現地調査や制度設計を実施
- ・ 令和5年度からベンチ設置を開始し、令和7年2月末時点で計65基整備済み
- ・ 令和6年度に広告事業の制度設計を実施

### <事業スキーム>

- ・ ベンチに広告を掲載することで得られる広告収入をベンチの設置費等に活用(図1)
- ・ ベンチの構造については、広告が添付できる据え置き式を基本としながらも、各歩道幅員の状況を考慮した様々なベンチタイプを検討(図2)

ベンチ所有者	熊本市（移動円滑推進課）
ベンチタイプ	【基本】背付きベンチ（広告付きベンチ） 【歩道が狭い場合】背無しベンチ、サポーターベンチ
広告	広告料をベンチ事業に活用。（※1）
ベンチ整備区域	・ 移動等円滑化促進地区（※2） ・ 居住誘導区域（※3） ・ その他の地区において、利用人数が多い場所
ベンチ設置場所	【基本】歩道上 【歩道が狭い場合】隣接する民有地等

- (※1) 民有地内に整備を行ったベンチについては、土地権利者もしくは土地使用者の承諾をいただける箇所のみ、広告を掲載。  
 (※2) バリアフリーマスタープランにおいて、バリアフリー化の優先的な促進を進める地区として位置付けている中心市街地、水前寺・九品寺地区、健軍地区。  
 (※3) 居住誘導区域とは、熊本市立地適正化計画で定めている、人口減少下においても、商業・医療等の日常生活サービス機能や公共交通が持続的に維持されるよう、一定のエリアに人口密度を維持する区域。
- <対象区域>  
 ・ 都市機能誘導区域（商業・医療等の日常生活サービス機能を都市の拠点で維持・確保することにより、必要なサービスを受けることが出来る区域）  
 ・ 公共交通軸沿線（全ての鉄軌道の半径500m圏内・運行本数75本以上のバス路線の半径300m圏内）



図1：事業のスキーム



図2：ベンチタイプ

# 令和6年度の主な取組

## 事業（2）乗換拠点の整備（上熊本駅交通結節機能強化）

### <概要>

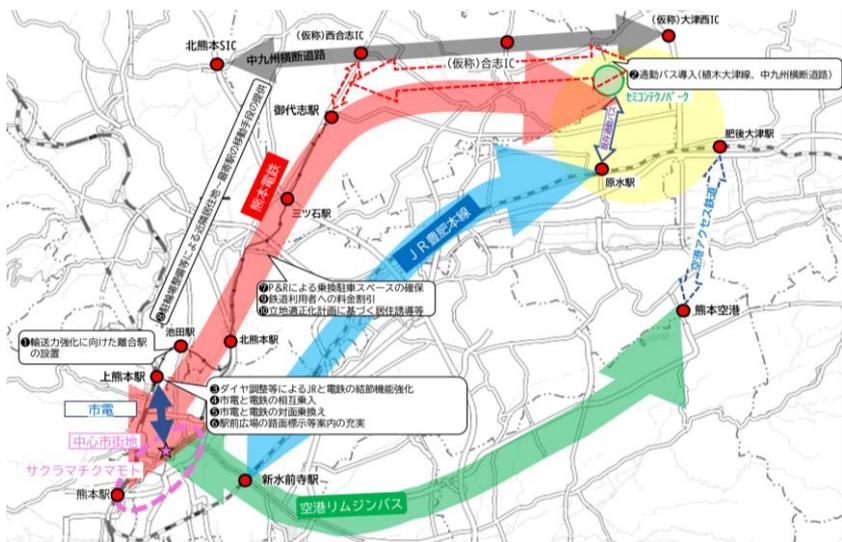
- 本市と合志市を結ぶ重要な基幹公共交通である熊本電鉄鉄道について、結節機能や輸送力の強化など公共交通への転換、交通渋滞の緩和、更には沿線地域の活性化に必要な施策等の検討を行うことを目的とするもの。

### <取組状況>

- 検討の方向性を整理するために、実務者レベルの専門部会を複数回実施。
- 県市で共有する目標『車1割削減、公共交通2倍、渋滞半減』の実現に向け、上熊本駅だけではなく、熊本電鉄を軸とした広域的な新たな公共交通ネットワークの構築に向けた検討を行う方向性について、関係者と合意。

分野	目的	施策群(案)
結節機能強化	輸送力の強化(運行本数の増加)	①輸送力強化に向けた離合駅の設置
	新たな交通NWの構築	②通勤バスの導入(大津植木線、中九州横断道路)
利用促進	乗換え利便性向上(時間短縮、乗換え手間減少など)	③ダイヤ調整等によるJRと電鉄の乗継易さ向上 ④市電と電鉄の相互乗入 ⑤市電と電鉄の対面乗換え ⑥駅前広場の路面標示等案内の充実
	公共交通利用者の増加	⑦P&Rによる電鉄沿線での乗換駐車スペースの確保 ⑧駐輪場整備等による近隣居住地～最寄駅の移動手段の提供
まちづくり		⑨鉄道利用者への料金割引 ⑩立地適正化計画に基づく居住誘導等

▲施策群(案)



▲全体イメージ

## 事業（2）乗換拠点の整備（新水前寺駅駐輪場の改修）

### <概要>

- 収容率オーバーが常態化している新水前寺駅東西高架下駐輪場について、収容台数を増加するとともに、スポーツサイクル等の駐輪スペースや屋根の設置等、多様なニーズに対応した改修を行い、交通結節機能の強化を図る。

### <取組状況>

- 西駐輪場がR6年10月、東駐輪場が12月に供用

○収容台数 西+東 727台 ⇒ **1,014台**

○改修内容

### 収容台数の確保（スライド式ラックの設置）

（整備後：西駐輪場）



（整備後：東駐輪場）



### 思いやりスペース



### スポーツサイクル用ラック



### 上屋



### 照明灯具の更新



# 令和6年度の主な取組

## 事業（5）多両編成車両の導入

### <概要>

- ・令和6年度は超低床形で輸送力のある多両編成車両を2編成導入
- ・R7年度も2編成導入予定  
（R6-R7の2カ年で2編成製造。R6年度は車体フレーム、R7年度は台車を製作。）

### <取組状況>

#### 【①運行状況及び主な基本仕様】

- ・令和6年11月24日より運行開始（2編成）
- ・既存車両における平均定員（約72人）の約1.5倍程度の定員
- ・実用的で座りやすいロングシートを全箇所採用
- ・車内移動に配慮した通路幅の確保

項目	新車両	既存COCORO号(H26運行開始)
定員	112人 (座席42人)	86人(座席38人)
構成	1編成3車体	1編成2車体
車両長さ	21.35m	18.46m
座席	全箇所ロングシート	対面式クロスシート (一部)ロングシート
最小通路幅	1,200mm	710mm

#### 【②外観及び内装】



■外観

（熊本城をモチーフにしたシンプルな外観）



■内装

（バリアフリーやUDに配慮した車内空間・設備）

## 事業（7）熊本市電における上下分離方式の導入

### <概要>

- ・持続安定的な市電の運行のためには、交通局が抱える諸課題（人材確保・育成、技術継承、経営状況）の解決が不可欠
- ・現在の交通局では、技能労務職員の退職者不補充の方針や経営上の理由等から、運転士等を正規で採用できず、上記課題の解決ができない
- ・現状のままでは、将来的に市電を運行させることができなくなる可能性があることから、将来にわたって持続安定的に市電を運行していくため、上下分離方式を導入するもの

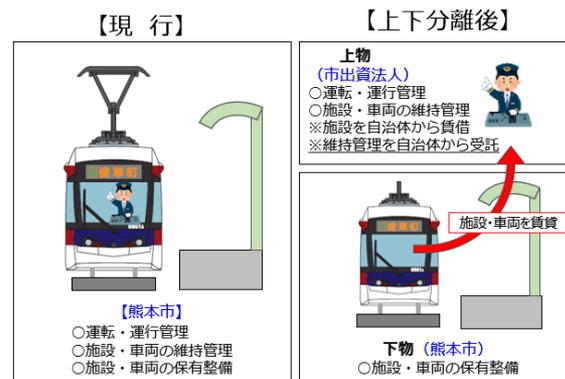
### <取組状況>

#### 【①軌道運送高度化実施計画の作成（延期）】

- ・上下分離方式を導入するためには、軌道運送高度化実施計画の国への申請及び認定が必要
- ・申請に向け、国、議会、本協議会でも意見をいただき作成中であったが、令和6年中の度重なる事故やインシデント等を受け、公共交通の基本である安全を再構築したうえで、計画の内容を再精査するため、申請を延期
- ・軌道運送高度化実施計画の申請延期に伴い、当初令和7年4月を予定していた上下分離方式の導入時期も延期となった

#### 【②「一般財団法人 熊本市公共交通公社」の設立】

- ・市電の運行を担う上物事業者である「一般財団法人 熊本市公共交通公社」を7月に設立
- ・公社職員として、令和7年3月時点で9人を採用し、移行へ向けた準備を行っている



▲上下分離方式のイメージ

# 令和6年度の主な取組

## 事業 (12)、(13) AI デマンドタクシー

### <概要>

・公共交通空白地域を含む地域における、バスや鉄道といった基幹公共交通との接続や、地域内における日常の移動手段の確保を目的としたAI（人工知能）配車システムを搭載した予約制の乗合タクシー。

### <取組状況>

#### 【①西区・南区（チョイソコくまもと西南）】

- ・令和4年11月より天明地域にて実証実験開始
- ・令和5年8月より運行エリアを飽田・小島・中島地域に拡大
- ・令和6年7月より本格導入
- <運行実績> ※R6.7～R7.1速報値
- ・運行日数：170日
- ・利用件数：5,271件
- ・1日平均：31.0件
- ・乗合率：1.26人（R7.1）



▲西南地域運行エリア

#### 【②北区（チョイソコくまもと植木）】

- ・令和6年7月より旧植木町にて本格導入
- <運行実績> ※R6.7～R7.1速報値
- ・運行日数：170日
- ・利用件数：5,759件
- ・1日平均：33.9件
- ・乗合率：1.29人（R7.1）



▲植木地域運行エリア

・実証実験で得られた課題に対応（車両の変更及び台数追加・運行時間の拡大）し、本格導入後は両地域ともに利用者が2倍以上に増加（実証実験14.6人/日）

#### 【③中央区・東区（チョイソコくまもとキッズ）】

- ・令和4年11月より実証実験開始
- ・小中学生の習い事先等への送迎利用を想定しており、利用ニーズと有効性の確認を目的
- ・令和7年3月末で実証実験を終了予定
- <実証実験の総括>
- 一定の利用ニーズと有効性ととともに、全市的なサービス展開に関する運転士確保の課題を確認できた。今後は、運転士不足等の課題に対応するため、公共ライドシェアの仕組みを活用したサービス展開等に向けた検討を進める

## 事業 (13) グリーンスローモビリティ

### <概要>

・まちなかに、バスや市電等の基幹公共交通機関や自家用車等で訪れた方々の、目的地までのラストワンマイル等を支える重要な移動手段として、また、まちなかの回遊性を向上させることを目的として実証実験実施。

### <取組状況>

#### 【①熊本城エリア（令和4年度）】

- ・令和4年5月に、花畑広場・桜の馬場城彩苑・熊本城二の丸広場などを結ぶルートで10日間の実証実験を行い利用人数は2,018人。

#### 【②まちなかエリア（令和5・6年度）】

- ・熊本城エリアの実証実験における利用者数やアンケートから、中心市街地におけるグリス口運行に一定の需要が確認できたことなどから、令和5年度については中心市街地アーケード周辺での走行実験を実施。
- ・上通エリアをR6.1.13～3.12（59日間）の期間行い利用人数は502人。
- ・下通エリアはR6.3.16～5.15（61日間）の期間行い利用人数は416人。

### 実証実験の結果概要

運行エリア	①上通エリア	②下通エリア	(参考) 熊本城エリア
実施期間	R6.1.13～3.12 (59日間)	R6.3.16～5.15 (61日間)	R4.5.13～5.22 (10日間)
運行時間	9:00～17:00	9:10～17:10	9:00～17:00
運賃	100円/回	100円/回 ※4/27-5/15無料	無料
利用人数	502人 ※電鉄駅前の乗降者403人	416人	2,018人
1日の平均利用者	8.5人/日	6.8人/日	201.8人/日
主な利用者(ターゲット)	電鉄利用者 来訪者	来訪者	観光客

### 運行車両



運行車両（上図）と運行ルート（右図）



# 令和6年度の主な取組

事業 (18) パークアンドライド (P&R)、サイクルアンドライド (C&R) 等の拡充

## <概要>

- 乗換拠点や交通拠点において需要や特性に応じて整備を行い、利用者の利便性の向上のほか、公共交通への利用転換や自家用車流入抑制によるバス路線等の定時制・速達性の向上を図ることで、公共交通の利用促進を目的とする。

## <取組状況>

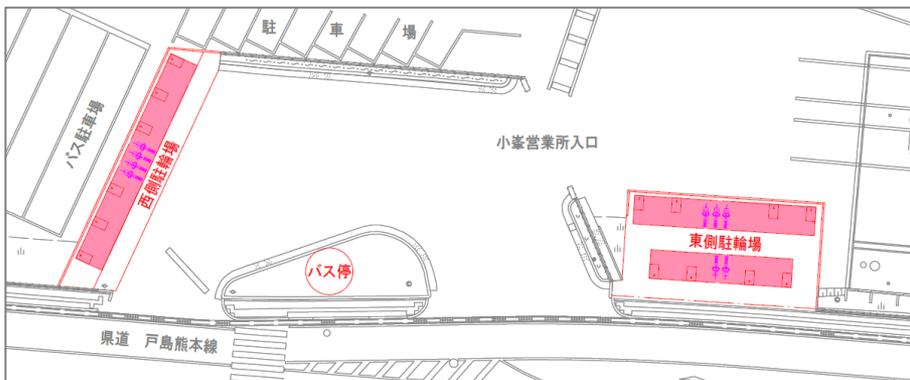
【小峯営業所C&R駐輪場の詳細設計を実施】



○配置計画 (案)

- バスの軌道と利用者のアクセスを考慮し、バス停を挟んで両側に駐輪場を新設

○収容台数 100台程度 (平置き)



▲配置計画(案)



▲小峯営業所バス停



▲西側駐輪場(現況)



▲東側駐輪場(現況)

○令和7年度の前定

- 4月から発注準備を進め、8月より工着手予定

事業 (18) パークアンドライド (P&R)、サイクルアンドライド (C&R) 等の拡充

## <概要>

- 乗換拠点や交通拠点において需要や特性に応じて整備を行い、利用者の利便性の向上のほか、公共交通への利用転換や自家用車流入抑制によるバス路線等の定時性・速達性の向上を図ることで、公共交通の利用促進を目的とする。

## <取組状況>

【1連携中核都市圏におけるP&Rの推進のための取組】

- 構成市町村と連携し、啓発用チラシの配布を行うなど利用促進活動を実施
- 本市としては、商業施設 (イオンモール熊本) と連携して取組を行っている。

【熊本都市圏パークアンドライド駐車場の稼働状況(R7.1月末時点)】  
 駐車可能台数: 395台  
 契約台数: 297台  
 ※熊本県HPより

▲啓発用チラシ

駐輪場(パーク)設置箇所	乗車数(バス停)	お問い合わせ先
1 宇土駅 宇土駅前駐輪場	宇土駅	096-23-1111 (宇土市都市整備課)
2 西原駅	西原駅	096-35-2343 (九州道交)
3 中の森駅	中の森駅	096-378-3447 (熊本バス)
4 イオンモール熊本	イオンモール熊本	096-335-2200
5 光の森営業所	光の森営業所	096-232-5700 (九州道交)
6 北熊本駅	北熊本駅	
7 新渡辺駅	新渡辺駅	096-343-2552 (熊本電鉄)
8 黒石駅	黒石駅	
9 旧代志駅	旧代志駅	096-343-2056 (熊本電鉄)
10 百花園ゴルフ場前バス停	百花園ゴルフ場前バス停	096-242-4300 (熊本電鉄)
11 大津営業所	大津駅交	096-293-3151 (九州道交)



▲啓発用チラシ (位置図)

# 令和6年度の主な取組

## 事業 (19) 交通事業者等と連携した利用促進

### <概要>

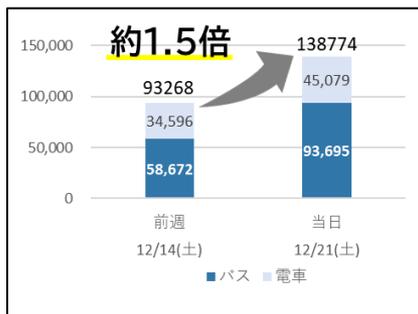
- ・多くの人が公共交通を利用する“きっかけ”をつくり、公共交通の利用促進を図るため、「バス・電車無料の日」を実施。
- ・また中心市街地の回遊性向上を図り、公共交通利用者を増加させること等を目的として、まちなかフリーバスを導入。

### <取組状況>

#### 【①バス・電車無料の日】

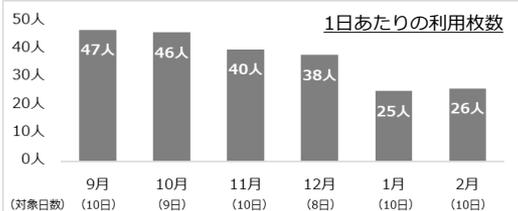
- 開催日  
令和6年12月21日(土)
- 実施主体  
熊本連携中枢都市圏構成市町村  
(協力：九州産交バス、産交バス、熊本電鉄、熊本バス、熊本都市バス、熊本市交通局他)
- 対象路線  
参加事業者が運行する路線のうち、熊本連携中枢都市圏域を運行する路線(一部例外有)  
※一部のコミュニティ交通も対象

#### ▼当日の公共交通利用者数(前週比較)

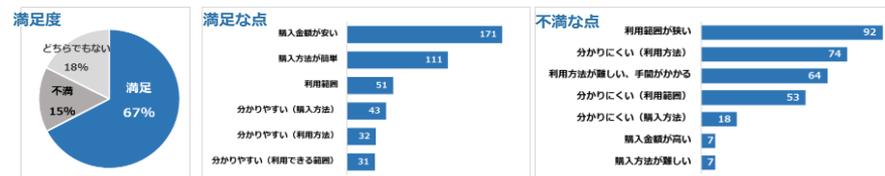


#### 【②まちなかフリーバス】

- 販売開始：令和6年9月7日(土)～
- 対象エリア：熊本市内中心部180円均一エリア
- 対象日：土日祝日のみ(購入は平日も可能)
- 対象交通機関：路線バス
- 券種：デジタルチケット
- 販売金額：300円(小学生以下2名まで無料)



#### 利用者を対象としたアンケート調査 ※R6年10月から実施 ※回答205人



## 事業 (23) 自動運転技術の導入検討

### <概要>

- ・深刻化している運転士不足への対応や、老年人口が増加傾向にある超高齢社会への対応、公共交通の利用促進を図ることを目的に、自動運転技術を活用するもの。
- ・まずは運転支援レベル2のバスから実証実験を開始し、システムによる監視となる自動運転レベル4の社会実装に向けた検証を進める。

#### ▼自動運転レベル(国土交通省資料)



### <取組状況>

レベル2にて自動運転バスを実証運行し、安全性や一般交通への影響、社会受容性を確認しているところ。  
次年度以降も実証を継続しながら、レベル4へのステップアップを目指す。

- 運行時期  
令和7年3月21日(金)～
- 運行ダイヤ  
1日6便程度  
(10時～16時頃)
- 運賃  
無料
- 運行ルート  
熊本城周遊ルート

